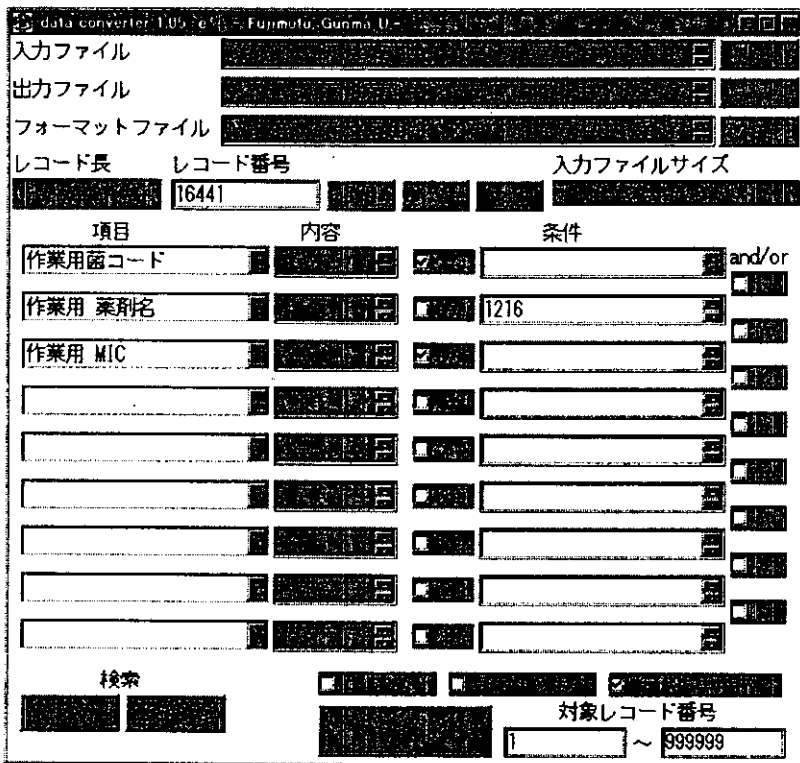


```

;薬剤毎にMICをまとめる。検査部、フォーマットファイル 1,,
;菌A,,
;薬剤1用,,
;平成13年8月15日 藤本 修平,,
;..
調査対象,1,1
施設コード,2,5
ID,7,15
入院日,22,8
性別,30,1
生年月日(西暦),31,8
入院外来,39,1
診療科,40,3
病棟,43,15
検査の目的,58,1
    
```

この例は、すべての情報を持ったまま、レコードの最後に、新たに、作業領域と、結果を入れる項目を設定しています。このフォーマットファイルが定義しているblockcopy命令のコピー先が既存のレコード(元のレコード)の長さの中に入っている(3008から16バイト、3024から5バイトで何れも3050バイト以下)、あらかじめ、予備領域をもうける作業をせずにこの作業を行いながら、同時に、レコードを延長してしまいます。  
 Aの菌コードから起炎性までを、作業用菌コードから起炎性までにコピー。つぎに、A-1から1-30 の情報を順次、作業用 薬剤名から判定(+), および、菌A 抗菌剤1 MICにコピー。これらに仮想レコードに対して菌コードが空白でなく、薬剤コードがたとえばABPC(1216)のもので、かつMICが空白でないものを選ぶことにします。(元のレコードは、菌コード空白のため選択されない。)

注フォーマットファイル中の作業に使わない部分については、ただ、データが受け継がれるように、  
 検体属性領域,1,499  
 どのような記述をし、その後の用いる部分について  
 A菌コード,500,4  
 A菌量,504,1  
 A菌数,506,1  
 A菌起炎性,508,1  
 B菌コード,507,4  
 のように、具体的に記述してゆく方法も可能です。この場合も、作業中に最初の499バイトの領域にあるデータを、blockcopy命令で操作することが出来ます。ただし、具体的な項目名が未定義になるので、この領域内の項目名が必要となる操作(閲覧、検索など)は出来ません。



フォーマットファイルに、たとえば上記の例のファイルを指定します。

作業用菌コードの条件欄に空白(半角スペース)を4個入れます。notチェックボックスをチェックして菌コードが空白のものを除きます。  
 作業用薬剤名の条件欄にABPCの菌コード(1216)を入れます。  
 作業用MICの条件欄に空白を5個入れます。notチェックボックスをチェックしてMICが空白のものを除きます。

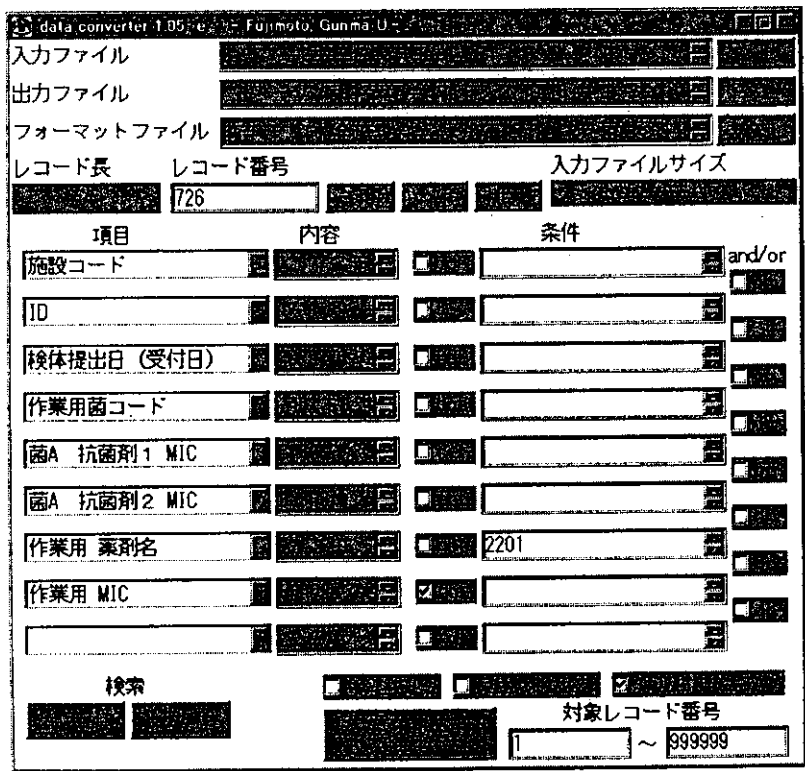
注) 検索を行う場合の留意点。仮想レコードを用いて検索を行った場合、条件にあった仮想レコードが現れるまで、blockcopy命令の処理が行われますが、いったん、条件にあった仮想レコードが見つかったら、そのレコードについてのblockcopy命令の実行は終了します。

入力ファイル、出力ファイルを選びファイル出力を行います。

これで、フォーマットファイルに記述した、「菌A 抗菌剤1 MIC」に、ABPCのMICが入ったレコードからなるファイルが出来ます。このファイルに対して、さらに、先ほどのフォーマットファイルと、MICのコピー先が「菌A 抗菌剤2 MIC」になっている以外は、同一のフォーマットファイルを用意して、今度は、別の薬剤コード(この例ではCP 2201)を条件にして、選択します。

```

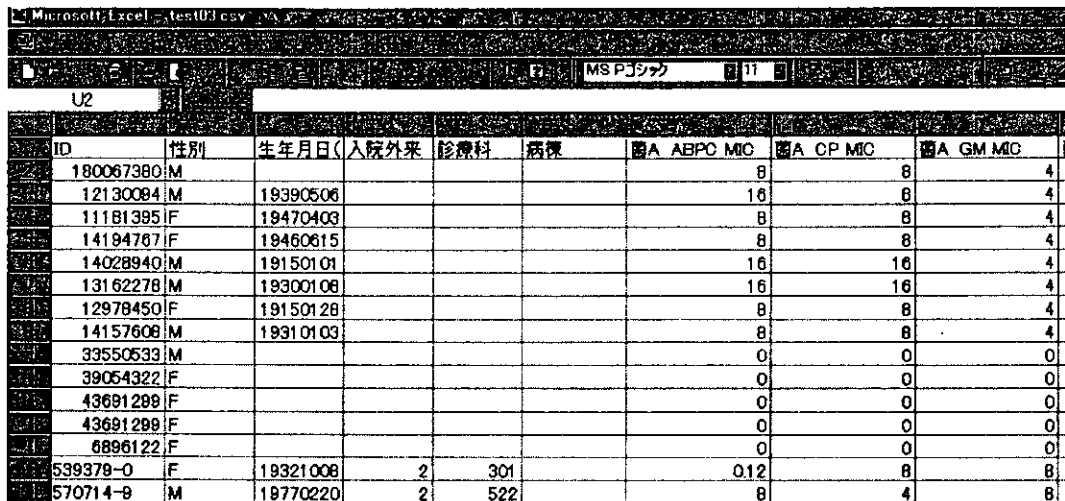
;薬剤毎にMICをまとめる。検査部、フォーマットファイル 2,,
;菌A,,
;薬剤 2 用,,
;平成13年8月15日 藤本 修平,,
;,,,
調査対象,1,1
施設コード,2,5
ID,7,15
入院日,22,8
性別,30,1
生年月日(西暦),31,8
入院外来,39,1
診療科,40,3
病棟,43,15
検査の目的,58,1
感染症名,59,9
感染症 ICD-10,68,5
体温,73,4
    
```



これによって、「菌A 抗菌剤1 MIC」に、ABPCのMICが、「菌A 抗菌剤2 MIC」に、CPのMICが入ったレコードからなるファイルが出来ま

す。このファイルに今度は、MICを「菌A 抗菌剤3 MIC」にコピーするように記述したフォーマットファイルを用いて3番目の薬剤を指定して、上記の繰り返しをすると、それらに加えて「菌A 抗菌剤3 MIC」に3番目の薬剤のMICが入ったレコードが出来ます。

出来たレコードを、Excelで読めるように縮小したものをひらくと、(この例では、見出しの「菌A 抗菌剤1 MIC」、...を、ABPC、CP、GMに変更してあります。)



| ID        | 性別 | 生年月日(入院外来) | 診療科 | 病棟  | 菌A ABPC MIC | 菌A CP MIC | 菌A GM MIC |
|-----------|----|------------|-----|-----|-------------|-----------|-----------|
| 180067380 | M  |            |     |     | 8           | 8         | 4         |
| 12130084  | M  | 19390506   |     |     | 16          | 8         | 4         |
| 11181395  | F  | 19470403   |     |     | 8           | 8         | 4         |
| 14194787  | F  | 19460615   |     |     | 8           | 8         | 4         |
| 14028940  | M  | 19150101   |     |     | 16          | 16        | 4         |
| 13162278  | M  | 19300108   |     |     | 16          | 16        | 4         |
| 12978450  | F  | 19150128   |     |     | 8           | 8         | 4         |
| 14157608  | M  | 19310103   |     |     | 8           | 8         | 4         |
| 33550533  | M  |            |     |     | 0           | 0         | 0         |
| 39054322  | F  |            |     |     | 0           | 0         | 0         |
| 43691289  | F  |            |     |     | 0           | 0         | 0         |
| 43691299  | F  |            |     |     | 0           | 0         | 0         |
| 6896122   | F  |            |     |     | 0           | 0         | 0         |
| 539379-0  | F  | 19321008   | 2   | 301 | 0.12        | 8         | 8         |
| 570714-8  | M  | 19770220   | 2   | 522 | 8           | 4         | 8         |

先頭に戻る、データコンバータ画面見本、作業例の始めに戻る、MICを薬剤毎にまとめるの始めに戻る

endnote 先頭に戻る

このプログラムは、Hot Soup Processor ver2.5 / onion software 1997-1999cを用いて作成しました。申し訳ありませんが、本プログラムによって生じた、いかなる損害についても保証いたしません。

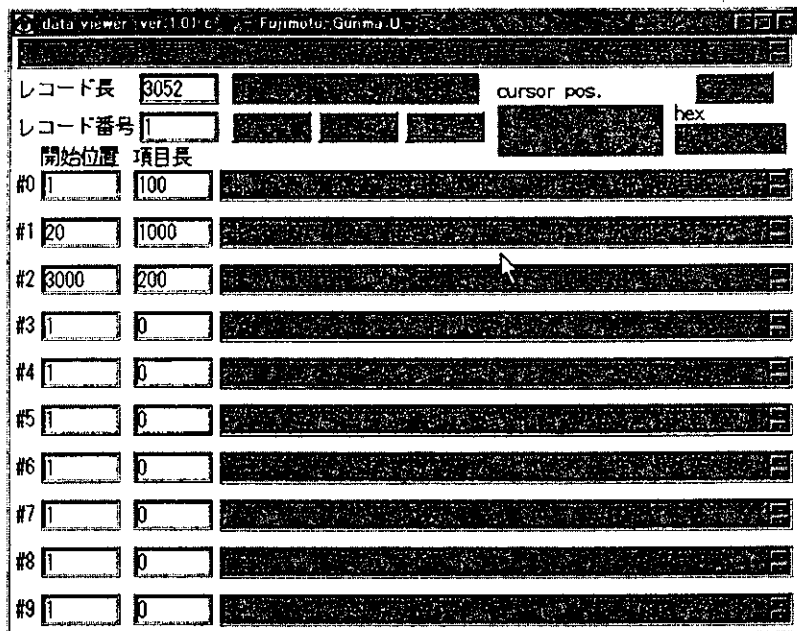
平成13年8月17日 群馬大学医学部微生物学教室・感染症制御部 藤本 修平

電子メール アドレス 先頭に戻る

sfujimoto@med.gunma-u.ac.jp

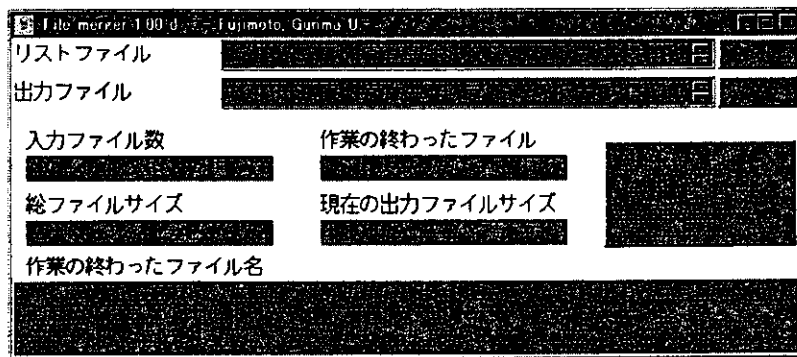
付録 (data viewerとfile merger) 先頭に戻る

固定長のデータを閲覧(表示)するためのdate viewer, フルパス名(ロングパス名、ロングファイル名で可)のファイル名リストからファイルの結合を行うためのfile mergerを用意しました。



data viewerは、カーソル位置の絶対位置、カーソル位置前後の文字コードも知ることが出来るので、データ変換システムのデバッグなどにも使えます。

file://C:\Data\_IV耐性菌サーベイランス\解析法の検討(研究班含む)\平成13年度報告書\資料1データコンバーター説明書\manual%2... 02/03/27  
データコンバータの説明 34/35 ページ



file mergerは、リストの指定後、直ちに、ファイル名のチェックを行い、出力ファイルの大きさを「総ファイルサイズ」(バイト)として表示します。存在しないファイルがあれば、この段階で指摘します。実際の結合に必要な時間は、同数のファイルのコピーにかかる時間程度です。  
file mergerで用いるリストの例です。このようなリストは、別の適当なソフトウェアを用いて作ります。public domain のソフト(freeware)でも、SVList、DirListなどで、リストが出来るようです。これらのソフトでは、ファイルがそれぞれ異なったフォルダーに入っている場合、一度に最深層の各フォルダーまで入ってファイル名をリストすることが出来ます。(制限や既知の問題については、それぞれのソフトウェアの説明を参照してください。これらのソフトウェアは、<http://www.vector.co.jp/>で入手可能です。

```
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10100310.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10100410.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10100610.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10100810.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10101810
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10101910.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10102010.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10102810.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10103110.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10103210.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10103410.txt
```

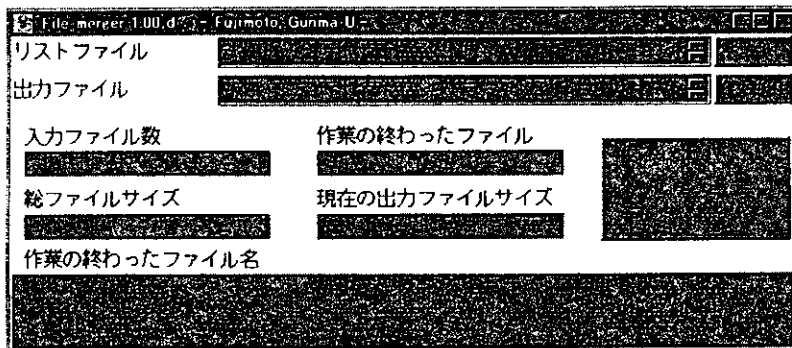
file://C:\Data\_IV耐性菌サーベイランス\解析法の検討(研究班含む)\平成13年度報告書\資料1データコンバーター説明書\manual%2... 02/03/27

```
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10103510
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10103710.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10200110.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10200410.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10200510.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10200610.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10300210.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10300310.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10400210.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10500210.txt
```

[先頭に戻る](#)

## 資料2. file merger (ファイル結合用プログラム)説明

フルパス名(ロングパス名、ロングファイル名で可)のファイル名リストからファイルの結合を行うためのユーティリティです。



file mergerは、リストの指定後、直ちに、ファイル名のチェックを行い、出力ファイルの大きさを「総ファイルサイズ」(バイト)として表示します。存在しないファイルがあれば、この段階で指摘します。実際の結合に必要な時間は、同数のファイルのコピーにかかる時間程度です。

file mergerで用いるリストの例です。このようなリストは、別の適当なソフトウェアを用いて作ります。public domain のソフト(freeware)でも、SVList、DirListなどで、リストが出来るようです。これらのソフトでは、ファイルがそれぞれ異なるフォルダーに入っても、一度に最深層の各フォルダーまで入ってファイル名をリストすることが出来ます。(制限や既存の問題については、それぞれのソフトウェアの説明を参照してください。これらのソフトウェアは、<http://www.vector.co.jp/>で入手可能です。

```
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10100310.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10100410.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10100610.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10100810.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10101810
```

file://C:\Data\_IV耐性菌サーベイランス\解析法の検討(研究班含む)\平成13年度報告書\資料2\_3\ファイル結合用プログラム説明.htm 02/03/27  
2/2 ページ

```
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10101910.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10102010.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10102810.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10103110.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10103210.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10103410.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10103510
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10103710.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10200110.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10200410.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10200510.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10200610.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10300210.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10300310.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10400210.txt
C:\Data_IV耐性菌サーベイランス\DATA\検査部データ\修正済みデータ\kensa10\10500210.txt
```

file://C:\Data\_IV耐性菌サーベイランス\解析法の検討(研究班含む)\平成13年度報告書\資料2\_3\ファイル結合用プログラム説明.htm 02/03/27

### 資料3. data file viewer (データ閲覧プログラム)説明

data file viewer (1.10c)

テキスト型のデータの検証をするためのviewerです。データが大きくて16進のdumpでは探しにくい時に、役立ちます。

動作条件:Windows95,98,98SEで動作を確認しました。

必要なファイル:data\_viewer.exeのみです。

使用法

1. 起動:data\_viewerのアイコンをクリックするか、見たいファイルをdata\_viewerのアイコンにドラッグアンドドロップして下さい。
2. ファイルが開かれていなければ、“参照”を押して、ファイルを開きます。
3. 見たい部分の開始位置を入れます。ファイルの最初の1文字目が、位置“1”です。
4. 見たい部分のデータの長さを③と同じ行の項目長に入れます。最大で9999文字までです。  
項目長は、必ずしも実際の項目と一致させる必要はありません。限度内で有れば、一度に、複数レコードにまたがった表示をさせることも可能です。
5. “show”を押します。
6. 開始位置、項目長を入力した行の右側の欄に、データが表示されます。データが表示欄より長い場合は、複数行にわたって表示されます。矢印キー、マウスホイールで、行を移動できます。
7. カーソルをデータの中で動かす(矢印キー、マウスなどで)と、カーソルの位置がcursor pos.の下に表示されます。  
位置は、文字が選択されていないときは、「カーソルの前の文字の位置 | 後ろの文字の位置」の形式で表示されます。文字が選択されているときは、「 | 最初の文字の位置→最後の文字の位置 | 」の形式で表示されます。

file://C:\Data\_IV耐性菌サーベイランス¥解析法の検討(研究班含む)¥平成13年度報告書¥資料2.3¥データ閲覧プログラム説明.htm 02/03/27  
data file viewer 2/3 ページ

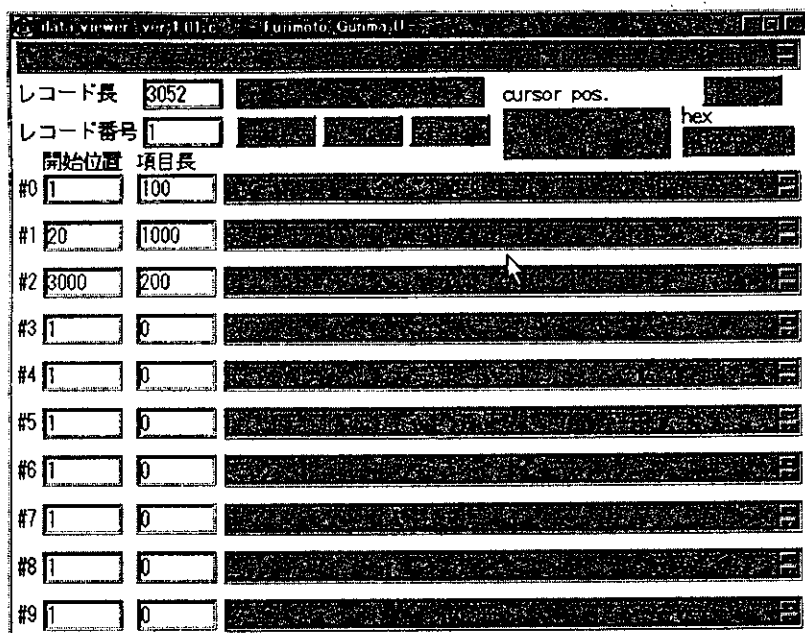
8. 同時に、カーソルの前後、または選択した文字列の先頭から4 bite分の文字コードが16進数でhexの下に表示されます。文字が選択されていないときは、原則として、「カーソルの1bite 前のコード | 後の3 bite分のコード」の形式で表示されます。
9. 固定長のレコードを持つファイルをレコード単位で扱う場合には、レコード長とレコード番号(1から始まる)をそれぞれの欄に入力します。レコード長にはレコード区切り記号の長さも含めて下さい。(間違った数字を入れても表示がずれるだけです)  
注)開始位置、項目長は、レコード長に関係なく決めることが出来ます。レコード長とレコード番号は単に、データをレコードの集まりとして扱った場合の、レコードの最初の位置を計算するためにのみ使われています。レコードとレコードの継ぎ目に関心がある場合は、継ぎ目を含むように、レコード長より長い項目長を指定したり、継ぎ目の前の開始位置から継ぎ目を越えるように項目長を設定します。
- 10.レコード番号を更新するには、レコード番号の欄にレコード番号を入れるか、“up”、“down”のボタンを使います。  
カーソルのあった行の表示欄には、カーソルのあった部分が、その他の行の表示欄には、指定した開始位置からのデータが表示されます。文字の選択は、レコードが変わっても新しいレコードの該当する部分に残ります。
- 11.作業の途中で、ファイルを変更した場合、新しいファイルの該当部分が表示されます。
- 12.データは、データに文字コード(00)があるとそこで表示が中断します。ただし、その部分にカーソルを置くことで、(00)を含めてその後のデータを16進データとして3 bite分見ることが出来ます。レコード長を3までとするか、その先を開始位置にして、順次その先を見ることが出来ますが、(00)の多いデータは16進dumpを用いる方が良いでしょう。
- 13.cursor pos.の表示は、カーソルが他の入力欄に移ると一旦消えますが、“show”を押すことで元に戻ります。
- 14.プログラムの終了は、タイトルバーのxボタン、または、一般的なwindows program の終了方法に従って行って下さい。

どうぞおためし下さい。

このプログラムは、フリーウェア Hot Soup Processor ver2.5 / onion software 1997-1999(c)を用いて作成しました。申し訳ありませんが、本プログラムによって生じた、いかなる損害についても 保証いたしません。

藤本 修平

file://C:\Data\_IV耐性菌サーベイランス¥解析法の検討(研究班含む)¥平成13年度報告書¥資料2.3¥データ閲覧プログラム説明.htm 02/03/27



データ閲覧プログラム 画面